

統計で見る大崎市

大崎市の自然、人口、経済、社会、教育、文化などの各分野の基本的な統計情報からわかる「大崎市」の姿です。これらのデータは「大崎市統計書」の中で公表しています。



「統計」を読み取る力を親子で一緒に学んでいます



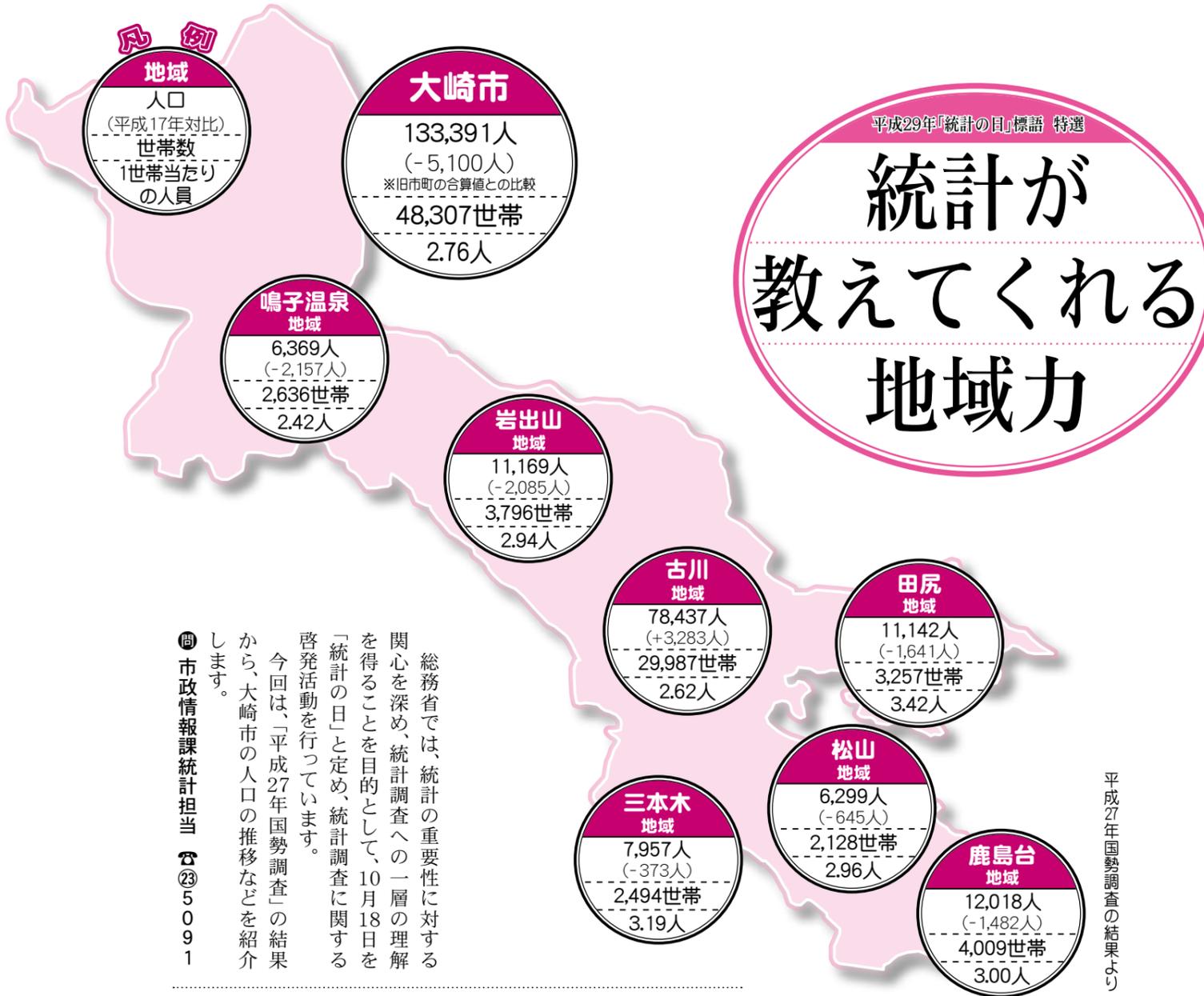
宮城県では、毎年、「宮城県統計グラフコンクール」や「親子統計グラフ教室」など、小・中学生に、統計を身近に感じてもらう取り組みを行っています。宮城県統計グラフコンクールには、大崎市内の小中学生も多数出展しています。

統計調査に回答をお願いします

国勢調査をはじめ、毎年、さまざまな統計調査が行われています。正確な統計を作成するためには、対象の皆さん・世帯・企業から漏れなく回答をいただくことが重要となります。制度の趣旨を理解いただき、統計調査への回答をお願いします。

■ 基幹統計調査(主なもの)

- 経済センサス** 全産業分野の事業所・企業の経済活動を全国・地域的に明らかにする調査です。
 ▶ 事業所数 5,943事業所 (県内2位)
- 農林業センサス** 農林業の生産構造・就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握する調査です。
 ▶ 販売農家数 4,653戸 (県内3位)
- 工業統計調査** 工業の実態を明らかにする調査です。
 ▶ 製造品出荷額 3,320億円 (県内2位)
- 住宅土地統計調査** 住宅・世帯の居住状態などを明らかにする調査です。
 ▶ 空き家率 11.36% (県内2位)
- 就業構造基本調査** 就業・不就業の実態を明らかにする調査です。
 ▶ 10月1日現在で調査を行っています。



国勢調査は、日本に住んでいるすべての人と世帯を対象とする、国の最も重要な統計調査です。

大崎市の人口と世帯数

人口は、合併前の平成17年国勢調査から51,000人減少の13万3,391人、世帯数は32,666世帯増加の4万8,307世帯でした。宮城県内の市町村別人口では、仙台市、石巻市に次ぐ県内第3位となっています。平成12年をピークに減少に転じ、今回の調査でも減少傾向にあります。

人口増減率は、平成22年にマイナス2%を下回ったのに対し、今回はマイナス1%程度であり、人口減少の幅がやや緩やかになったことが分かります。

世帯数は増加しています。一方で一世帯あたりの人員は減少しています。これは、一人暮らし世帯や核家族世帯の増加などがその背景にあると考えられます。

高齢者人口割合は、平成27年では27%となっています。出生減や団塊世代の高齢化を背景に、高齢化が進んでいる状況がみとれます。

調査結果の公表

人口や世帯数のほかに、年齢別人口、配偶関係、世帯構造や住居、就業に関する集計など、さまざまな結果が公表されています。国勢調査や統計調査の結果は、総務省統計局や宮城県のウェブサイトを確認することができます。

大崎市内の各種統計を掲載した「大崎市統計書」は、市ウェブサイト、市政情報課や各総合支所の市政情報コーナーで閲覧ができます。

▼市ウェブサイト「大崎市統計書」<http://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/10.0.32.122.html>

調査結果の活用

国勢調査の結果は、少子高齢化対策、防災対策、地方創生などの国の重要課題に対する施策に活用されています。

大崎市では、「大崎市総合計画」をはじめとする各政策立案に活用しています。